

今回、五日間の社会福祉施設での「介護等体験」に参加させていただいて、まず初めに感じたことは「認識の甘さ」でした。特別養護老人ホームという名前の「特別」の意味をしっかりと考えておらず、毎日デイサービスのように施設に来ている人とコミュニケーションを取って、その人たちのお手伝いをするかなと自分の中で想像していました。

認知症に対するイメージも実際の現場に出るまでは、もっと軽いものだと思っていました。そのため、施設に配属されてから最初の二日間は、そのギャップに戸惑い、施設内の雰囲気慣れていくことで精一杯でした。正直な感想を言うならば、現場の実状に打ちのめされていたと言っていいと思います。ですが、そんな中でまず入居者の方とのコミュニケーションを第一に考え、目線の高さを合わせることや、声の大きさを常に意識することからコツコツと始めていくうちに、入居者の方から声をかけていただく機会が増えていきました。自分なりの工夫や、施設の職員の方からのアドバイスを実践することで徐々に距離感が近くなっていき、少しずつ前向きになることができました。自ら進んで仕事を探したり、能動的に動けるようになってきた後は、とても充実した介護等体験を送ることができていたと思います。いつの間にか、私の方が施設の入居者の方たちに元気をもたらしていました。

最終日である五日目が終わった時、自分の中にあつた価値観や誰かを想うということの意味が変わっていることを実感しました。人との接し方、自分から積極的に物事に取り組む意識など、教えていただいたことも数多くあり、総括して本当に有意義な体験活動を行うことができたと思います。この五日間で学んだことを忘れずに、これからの日々に活かしていきたいと思います。

以上